

日露戦争における 乃木希典の虚像と実像



今年、明治維新から百五十年の節目の年ですが、地球上から植民地を無くして、人種平等の世界を実現する扉を開いたのが明治維新であるとするならば、その夢が実現できる事を証明したのが日露戦争の勝利です。それを象徴する戦いが、日本海海戦の完全勝利と旅順要塞の陥落で、世界中の人々が、日露戦争を代表する軍人として高く評価したのは、海軍は東郷平八郎大将、陸軍は乃木希典大将でした。

乃木大将については、旅順の攻略が遅れに遅れていることへの批判が、日露戦争の最中からありました。批判の原因は、要塞の攻略が如何に困難かを知らなかった事にありますが、この批判は戦後益々強くなり、特に司馬遼太郎氏の影響には、大きなものがありました。しかし要塞攻略とは如何なるものかを知っていたのは外国人でした。第三軍に付きつきり、司令官乃木大将の指揮統率を見ていた観戦武官や従軍記者の評価が全く違うのはそのためです。今回は、旅順攻略戦の問題点と乃木大将の軍人としてのあり方を、ご一緒に考えたいと思います。

講師

元防衛研究所戦史部
主任研究官

永江太郎先生

プロフィール

1937（昭和12）年生まれ。中央大学経済学部卒業。昭和34年、陸上自衛隊に入隊。幹部候補生学校などで戦史教官を務める。昭和58年から防衛庁防衛研究所にて主任研究官等として平成14年まで勤務。軍事史学会・戦略研究学会などの役員を歴任。

日時

平成30年**3月10日(土)**

午後2時～4時（開場：午後1時）

会場

靖国会館 **2階 玉垣の間**

東京都千代田区九段北3-1-1（靖國神社内）

参加費 1,000円

どなたでも御来聴を歓迎しますが、先着60名まで。
但し、予約できます。学生は無料。

主催・お問い合わせ先

一般財団法人

日本学協会

〒166-0002

東京都杉並区高円寺北1-12-19

TEL.03-3386-0422 FAX.03-3385-0970

Eメール：nihongakukyokai@jcom.home.ne.jp

<http://www.nihongakukyokai.or.jp/>